

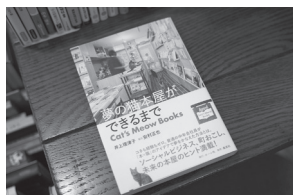


猫店員は左上がなつめさん(6歳)、左下があいさん(1歳)、右上がさつきさん(8歳)。全員、おしとやかで接客上手。コーヒー(右下/300円)のほかにソフトドリンクやビールも注文できる。

Cat's Meow Books



安村正也(やすむらまさや)さん蔵書で床が抜けるほど読書好きな母親の影響で本が好きになり、子どもの頃は猫のエバと姉のように過ごしていた。本と猫とビール好きが高じて「キャッツミャウブックス」を立ち上げる。



ルポ

猫本だけの本屋さんめぐり

熊谷あづさ

(猫好きライター)

見るだけで幸せをもたらしてくれる猫。絵や写真を目にすれば頬がゆるみ、猫のことが書いてある本なら著者への親近感が一気に高まる。猫好きなら一度は訪れてみたい猫本専門店をめぐってきた。

今、私は「三人」の猫と暮らしている。猫への興味は尽きることがない。リアルな猫はもちろん、SNSでもいろいろな猫ちゃんを愛でているし、猫番組の猫に感情移入して笑ったり泣いたりもするし、猫グッズや猫に関する本には目ざとく反応する。

三年前に猫写真家の沖昌之さんと共著で『ニャン生訓』(集英社インターナショナル)という本を上梓した。そのときに猫本専門の本屋さんの存在を知ったのだけれど、訪れたことはない。ネットで読んだ記事をきっかけに興味が高まり、実際に行ってみようと思った。

猫店員さんが接客をする本屋さん

まず向かったのは、以前から気になっていた「キャッツミャウブックス」。世田谷線西太子堂駅を出て右折し進むと約二分。住宅街の一軒家の窓からのぞく猫の写真やイラストに目がと

まる。店内は約八坪の縦長の空間が引き戸で仕切られ、手前と奥とでスペースが分かれている。店内に入るとまず目につくのが絵本やマンガ、写真集。マンガ『おじさまと猫』や沖昌之さんの写真集『必死すぎるネコ』など、うちの本棚にもある本を見つげるとホッとします。おそらく、たくさん猫の本を目の当たりにして圧倒され、同時に興奮しているのだと思う。

その時点までは平静を装うことができたが、店の奥に足を踏み入れた途端、気がゆるんでしまう。なぜかというところ、三人の猫店員さんが働いていらつしやるから。猫店員専用デスクでくつろいだり、特別仕様の本棚の穴を行き来したり。猫店員さんの気配を感じながら猫の本を選べる空間は猫好きにとつての「楽園」だ。

猫店員さんのいるスペースに置かれているのは小説やエッセイなど活字が多い本がほとんど。『吾輩は猫である』や『ノラや』、『猫語の教科書』といった定番の猫本もあれば、猫の飼育方法的な実用書もある。三島由紀夫の『金閣寺』や梶井基次郎の『檸檬』、佐藤春夫の『田園の憂鬱』など自宅にある本も並んでいるが、どの場面にも猫が出ていたのかさっぱり思い出せない。しかし、店主の安村正也さんは「どこかに必ず猫が登場する本」をモットーに選書しているそう

この続きは本誌でぜひ！